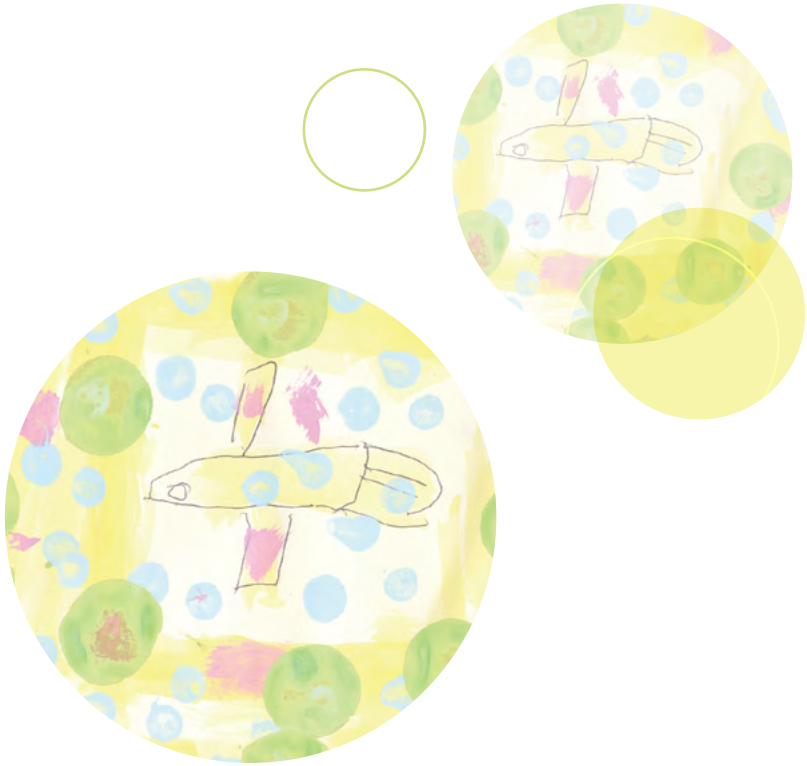
宝グループ
環境活動REPORT
2025

◀ 統合報告書
（宝グループレポート）は
こちらをご覧ください。

宝ホールディングス株式会社
京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町20
TEL：075-241-5130

（2025年10月）



このレポートはデザインに
「京都ふぉんと」を使用しています。

「京都ふぉんと」は、障がいをもつアーティストとデザイナーが協力しフォントやパターンを制作。企業や各種団体が活用することで使用料の一部を障がいをもつアーティストに還元する共創アートプロジェクトです。 ㊀ P.17 参照

3 1. 環境方針

2. 環境活動

4 ● LCA（ライフサイクルアセスメント）
5 原料調達――環境に配慮した商品
6 生産――宝グループのCO_2排出量削減と算定/生産工程でのCO_2排出/水資源の利用/廃棄物の削減
9 物流――物流工程でのCO_2排出
10 販売・消費――4Rの推進/容器包装資材の循環
12 ● タカラ・ハーモニストファンド
14 ● 田んぼの学校
15 ● エコの学校
16 ● その他の環境社会活動

3. 環境データ

18 ● 各種データ
20 ● TCFDフレームワークに基づく開示

23 4. 宝の環境社会活動のあゆみ

1. 環境方針

宝グループ環境方針

宝グループは、地球環境の保全と事業活動の調和を経営の重要課題のひとつとし、環境マネジメントシステムを構築して継続的な改善に取り組み、持続可能な社会づくりに貢献します。

1. 環境に関連する法令および組織が同意するその他の要求事項を順守します。
2. 宝グループが行う事業活動の中、以下の項目について重点的に取り組みます。
   - ① 環境汚染の予防に努めます。
   - ② 省エネ・省資源を推進し、持続可能な資源の利用に努めます。
   - ③ 温室効果ガスの排出量を削減し、気候変動の緩和に努めます。
   - ④ 生物多様性や生態系の保護・保全に関わる活動を推進、支援します。
   - ⑤ 容器包装の３Ｒへの対応など、環境に配慮した商品開発に努めます。
3. 環境活動への取り組みや環境パフォーマンス情報を積極的に開示し、社会とのコミュニケーションに努めます。
4. 本環境方針は、教育啓発活動を通じて宝グループの全構成員に周知するとともに、社員の社会貢献活動への参加を積極的に支援します。

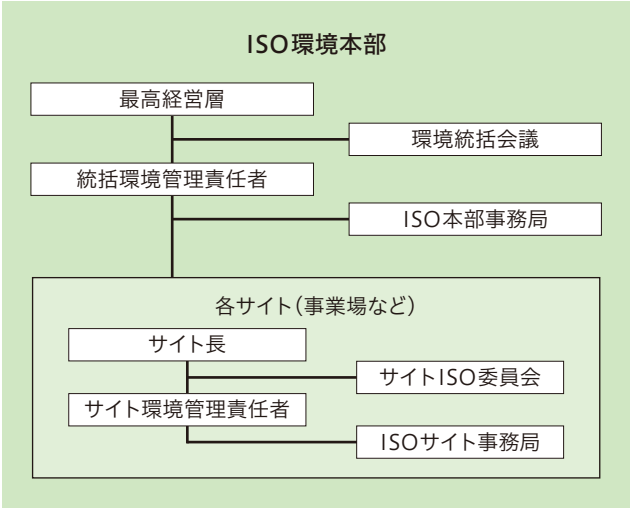
宝グループ環境マネジメントシステム

ISO14001に基づく環境マネジメント体制を確立

宝酒造の全工場、本社、および宝ホールディングス、宝酒造インターナショナルの本社で、ISO14001の認証を取得しています。

ISO環境本部を中心に、経営と直結した目標に向かって活動しています。

● 宝グループ環境マネジメント体制



環境関連法規の遵守状況

定期的に遵守状況をチェック

ISO14001のシステムを有効に利用して定期的なチェックを実施し、法規の遵守状況を確認しています。また、環境汚染の未然防止の観点から、自主基準を設定しています。

なお、2025年3月期における環境法令違反による罰金および処罰事項はありませんでした。

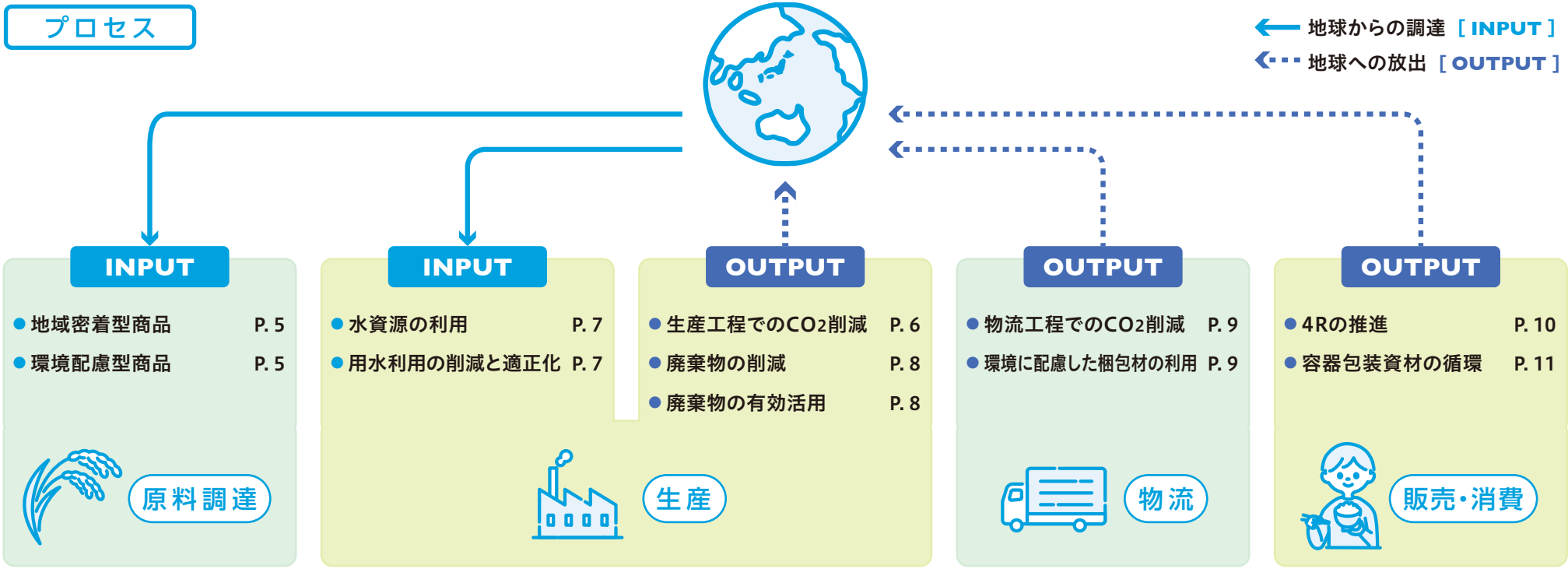
主要な環境関連法規

- 気候変動関係法規（温対法など）
- 公害関係法規（水質汚濁防止法など）
- 廃棄物処理関係法規（廃棄物処理法など）
- 化学物質管理関係法規（PRTR法、毒物劇物取締法など）
- リサイクル関連法規（容器包装リサイクル法など）
- 省資源関連法規（省エネ法など）
- プラスチック関係法規（プラ新法など）　など

2. 環境活動

● LCA（ライフサイクルアセスメント）

ライフサイクルアセスメントとは、製品やサービスにおいて、ライフサイクル全体での環境負荷を定量的に評価する手法のことです。当環境活動REPORTでは、宝酒造・宝酒造インターナショナルでの事業を、「地球からの調達＝INPUT」と「地球への放出＝OUTPUT」に区分して紹介しています。宝グループの事業は環境に依存し、影響を与えていますが、製品の原料調達から消費までの過程の中で、その環境負荷を削減しながら事業活動を通じた社会課題の解決に取り組んでまいります。



LCA 原料調達 INPUT 生産 物流 販売・消費

環境に配慮した商品

宝酒造では、果皮などの未利用部位を活用した商品を開発し、フードロス削減への取り組みを積極的に進めています。また、生産者と協働し、商品の原料調達段階から環境負荷に考慮した商品開発も行っています。

◇地域密着型商品　寶CRAFT

「寶CRAFT」では、本来は未利用部位として廃棄している果皮や種から香り成分を抽出した果実エキスと、果皮や種をすりつぶした果実ペーストを商品に使用しています。

また、高齢化等により収穫時期の人手不足が課題となっていることから、当社社員が産地に訪問して収穫のお手伝いを行う活動も続けています。

社員による収穫ボランティア

第7回エコプロアワード 財務大臣賞受賞

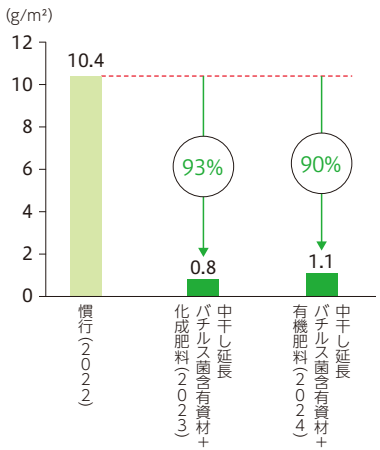
サステナビリティトランスフォーメーション（SX）の実現に寄与することを目的とした表彰制度「エコプロアワード」において、宝酒造の『耕作放棄地を活用して誕生した「京檸檬」と「京檸檬」を活用した「寶CRAFT」〈京檸檬〉チューハイの取り組み』が「財務大臣賞」を受賞しました。

◇環境配慮型商品　松竹梅白壁蔵「然土（ねんど）」

然土に使用する酒米では、篤農家と共同して中干し期間を延長することでメタン生成菌の活動を抑制し、メタンガスの発生量を削減する取り組みを行っています。

2024年度はこれまでの取り組みに加えて、環境に配慮した有機肥料を活用しながらメタンガスの発生を抑制できるかを検証しました。その結果、化成肥料を使用した場合と比較して、同程度のメタンガス発生抑制効果が得られることが明らかになりました。

各種施策によるメタンガス発生量の推移



中干し期間の延長とバチルス菌含有資材の併用により、メタンガスの排出量を約90%削減できることが分かりました。

松竹梅白壁蔵「然土」

（サイトより引用：環境への取り組み｜松竹梅「然土」｜清酒（日本酒）｜商品紹介｜宝酒造株式会社）

LCA 原料調達 生産 物流 販売・消費
OUTPUT

宝グループのCO2排出量削減と算定

CO2排出量削減への取り組み

宝グループはサステナビリティ・ビジョンにおいて CO2排出量削減目標を掲げ、Scope1,2,3の算定とCO2排出量削減に取り組んでいます。

宝酒造＋ 宝酒造インターナショナルグループ	【2030年度】生産拠点におけるCO2排出量を46%削減（2018年度比）
宝酒造（物流部門）	【2030年度】輸送におけるCO2排出原単位（出荷数量あたりのCO2排出量）を10%削減（2018年度比）
タカラバイオグループ	【2025年度】CO2排出原単位（売上高当たりのCO2排出量）を50%削減（2018年度比）
グループ全体	【2050年度】CO2排出量実質ゼロ

サプライチェーン全体での温室効果ガス（GHG）排出量の算定

宝グループでは、脱炭素社会を実現するため、Scope1,Scope2に加えて、Scope3のGHG排出量把握も推進しています。2023年度排出量実績は、宝ホールディングスおよび宝酒造、宝酒造インターナショナルグループの海外酒類事業を対象に算定を行いました。

今後も宝グループ全体のGHG排出量を把握するために、海外日本食材卸会社などに算定範囲を拡大していきます。

GHG排出量算定に対する第三者認証を取得

2023年度の宝ホールディングスおよび宝酒造、宝酒造インターナショナルグループの海外生産拠点のScope1,2,3の算定に対して、検証機関「一般社団法人日本能率協会サステナビリティセンター」より第三者認証を取得しました。

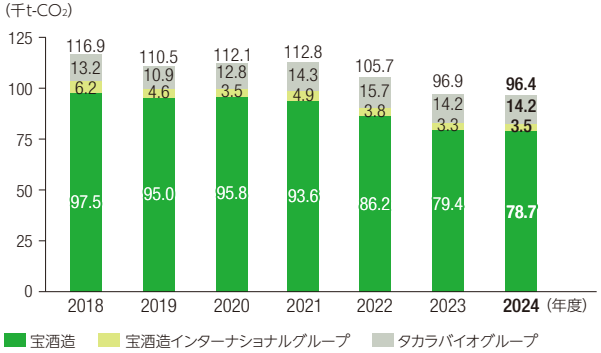
第三者認証報告書

生産工程でのCO2排出

省エネ設備の導入や設備運用の適正化によるCO2排出量削減

宝グループの2024年度の生産工程におけるCO2総排出量は96.4千t-CO2となり、前期比では0.5%の減少、2018年度比では17.5%の減少となりました。グループ全体のCO2排出量の8割以上を占める宝酒造の生産工程では、高効率な貫流ボイラーへの更新、全工場における重油ボイラーからLNGへの燃料転換、太陽光パネルの導入など各種施策や設備運用の適正化に取り組みました。その結果CO2排出量が78.7千t-CO2となり、前期比0.8%の減少となりました。

宝グループの生産工程でのCO2排出量



<集計範囲>
宝酒造、Takara Sake USA Inc.、宝酒造食品有限公司、
The Tomatin Distillery Co.Ltd、タカラバイオ、宝生物工程（大連）有限公司、
DSS Takara Bio India Pvt. Ltd.、Takara Bio USA,Inc.
※2019年2月まで瑞穂農林、きのこセンター金武を含む

宝酒造黒壁蔵の太陽光パネル（宮崎）

LCA 原料調達 生産 物流 販売・消費
INPUT

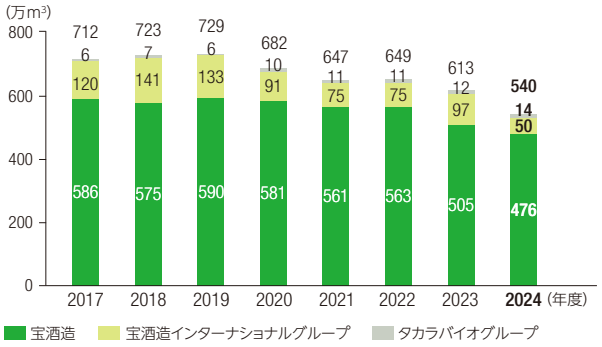
水資源の利用

生産工程での用水使用量の削減

宝グループでは、宝グループ環境方針に「省エネ・省資源を推進し、持続可能な資源の利用に努めます。」と掲げており、限りある水資源を持続可能な状態で利用し続けていくために、水資源使用量を削減することの重要性を認識し、使用量の削減および適正化を推進していきます。節水設備の導入等により、宝グループの2024年度の生産工程における用水の総使用量は540万m³となり、前年度比で11.9%の減少となりました。

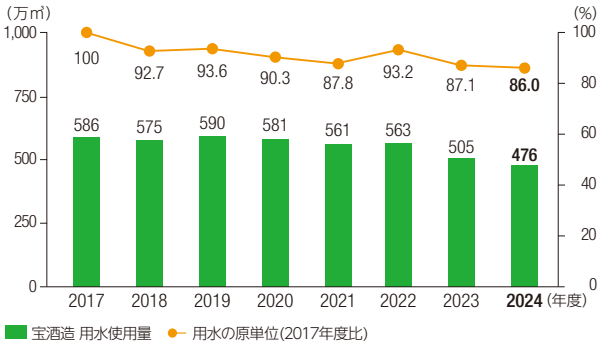
宝酒造の用水原単位（生産数量当たりの用水使用量）は目標である2017年度に対して、14.0%の削減となりました。

宝グループの生産工程での用水使用量



<集計範囲>
宝酒造、Takara Sake USA Inc.、宝酒造食品有限公司、
The Tomatin Distillery Co.Ltd、タカラバイオ、宝生物工程（大連）有限公司、
DSS Takara Bio India Pvt. Ltd.、Takara Bio USA,Inc.
※2019年2月まで瑞穂農林、きのこセンター金武を含む

宝酒造の用水使用量と原単位



用水使用量削減および適正化の取り組み事例

宝グループでは、持続可能な水資源の利用を目指し、特に水使用量の多い宝酒造の国内工場において優先的に節水と適正化の取り組みを進めていきます。

●節水設備の導入

宝酒造黒壁蔵では、井戸水を使用していますが、“クーリングタワー”を導入し、水を繰り返し使用することで、年間約400千t削減することができました。

クーリングタワー

●洗浄水・冷却水の再利用

宝酒造松戸工場では、製造設備を洗浄したり、冷却するために井戸水を使用していますが、洗浄水や冷却水を回収して工業用水として再利用しています。この施策により、年間約125千tの用水使用量が削減できました。

●殺菌用温水の再利用

宝酒造伏見工場では、製品を殺菌する際に必要な設備であるパストライザーの温排水を回収して、生産設備であるボイラーの用水として再利用しています。これにより、年間約18千tの用水を削減できています。

パストライザー

LCA 原料調達 生産 物流 販売・消費
OUTPUT

廃棄物の削減

工場廃棄物の削減および再資源化によるサーキュラーエコノミーの推進

宝酒造の工場では、焼酎粕などの副産物や排水処理汚泥、原料や容器の運搬資材などの廃棄物が発生します。その対策として、産業廃棄物の廃棄ルート見直しによる有価売却化、焼酎粕などの食品系副産物の飼料化・肥料化、酒パック損紙のリサイクルなど、工場廃棄物排出量の削減に取り組んでいます。2024年度の宝酒造の廃棄物排出量は3,518t、再利用率は97.3%となりました。

宝酒造の廃棄物排出量と再利用率

飼料化設備の活用

黒壁蔵では、2005年9月に「焼酎粕飼料化設備」を導入しました。この設備により、焼酎粕を家畜飼料原料として再利用するだけでなく、微量のアルコールを回収し施設内のボイラー燃料として活用することで、有機廃棄物の再資源化を実現しています。黒壁蔵では、資源を最大限再利用することで「ゼロエミッション化」を推進しています。

飼料化設備

酒粕・みりん粕のアップサイクルの促進

宝酒造では、グループ会社のタカラ物産を通じて、清酒およびみりんの製造工程で発生する副産物である「酒粕」「みりん粕」のほぼ全量を廃棄せず利用しています。また、タカラ物産では「酒粕」を他社からも引き取ることで、より多くの副産物のアップサイクルに貢献しています。それらは家庭用としての販売に加え、漬物や甘酒の原料、家畜飼料などに使用されています。

酒粕の回収工程

家庭用製品

ワイン・シャンパンコルクのアップサイクル

ラック・コーポレーションでは、リファーシステム・ジャパン株式会社様の使用済みコルク回収の取り組みに、開始初期より協力しています。この取り組みは、特定非営利活動法人RE機構の「サークルオブコルク」という活動の一環です。「サークルオブコルク」では、本来レストランやホテルで廃棄物として捨てられてしまうワインやシャンパンのコルクを回収して、コースターや鍋敷きなどのコルク商品にアップサイクルする活動で、心身に不自由のある方の雇用にも繋がっています。

回収したコルク

LCA 原料調達 生産 物流 販売・消費
OUTPUT

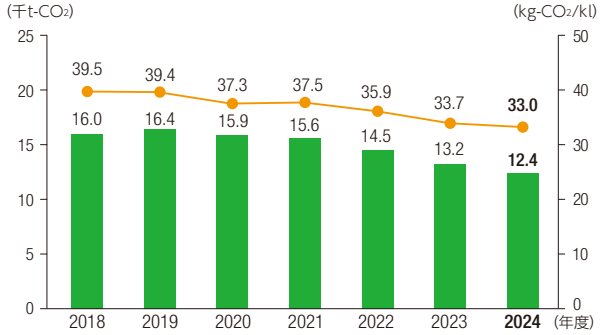
物流工程でのCO2排出

物流の効率化や輸送方法の変更によるCO2排出量削減

宝酒造では、物流の効率化や転送の削減、省エネ運転、モーダルシフトの推進、トラック輸送やタンカー輸送における製品積載率の向上など、輸送時のCO2排出量の削減に取り組んでいます。2024年度の物流工程におけるCO2排出量は12.4千t-CO2、CO2排出原単位（出荷数量あたりのCO2排出量）は基準年度である2018年度比で16.5%の削減となりました。

専用タンカーでのアルコール輸送

宝酒造の物流工程でのCO2排出量と原単位



環境に配慮した輸送用保冷箱の利用（タカラバイオ）

研究用試薬は輸送の際に、熱・衝撃・振動による影響を避けるため、製品仕様に合わせて、保冷剤や冷却材、緩衝材と共に発泡スチロール製の保冷箱に梱包し、品質・性能を保持しています。

タカラバイオでは、この研究用試薬の輸送用保冷箱を、使用済み発泡スチロールや廃家電のポリスチレンから再生した樹脂を100%使用した「再生発泡スチロール」製に変更することで、年間約10トンの発泡スチロールをリサイクル素材に切り替えています。

また、海外向け冷凍輸送において、高性能専用保冷箱を導入しました。これにより、海外向け輸送時に使用するドライアイスの量を従来比で約50%削減することを目指します。

他にも製品パッケージのアルミレス化や、紙素材の製品箱をFSC認証材へ切り替えるなど、環境負荷軽減対策を進めています。

再生発泡スチロールの梱包例

LCA 原料調達 生産 物流 販売・消費 OUTPUT

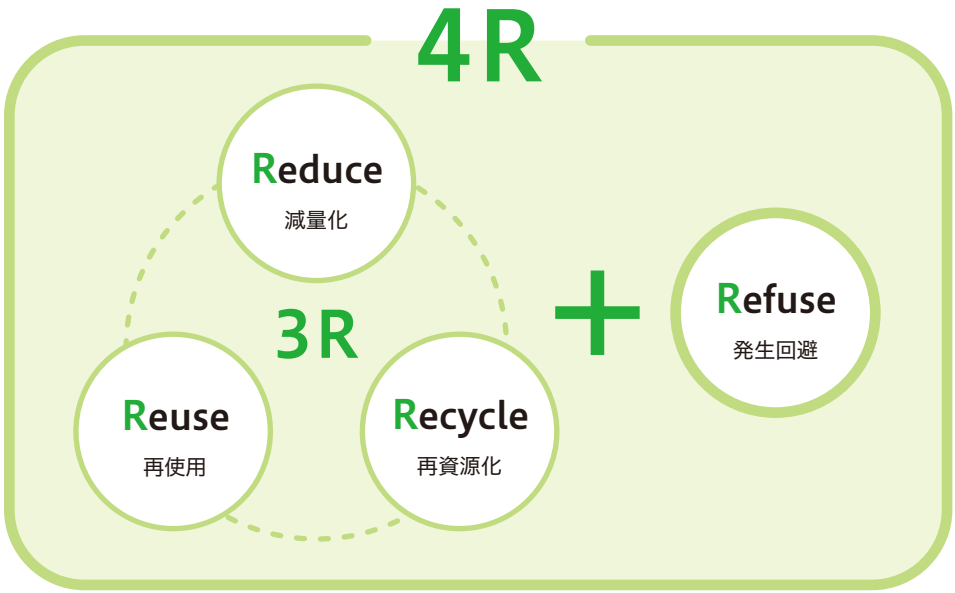
4Rの推進

空容器の発生回避に向けて

一般家庭から出るごみの約6割（容積比）は、容器包装が占めています。

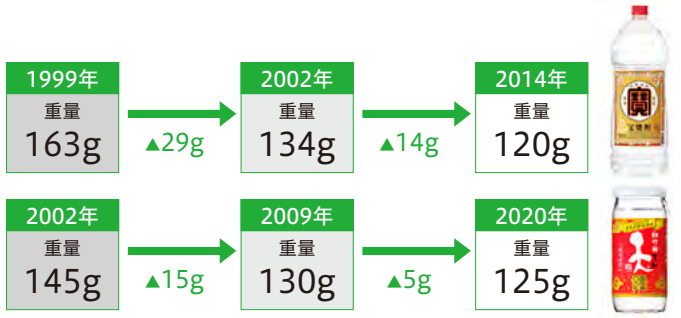
宝酒造ではこの空容器の問題に対処するため、リデュース（Reduce：減量化）、リユース（Reuse：再使用）、リサイクル（Recycle：再資源化）の3Rにリフューズ（Refuse：発生回避）を加えた4Rの取り組みを進めています。

リフューズとは、余分なものを買わずに必要な物だけを買うことにより、ごみを減らす活動です。「はかり売り」は、容器を購入せず必要な分だけ中身を買うという意味でリフューズにあたります。



リデュース 容器の軽量化

容器の軽量化は、製造時の資源消費や商品輸送に伴う燃料使用の削減などの環境負荷削減効果が期待できます。



リユース リターナブル容器の使用

一升びんをはじめとするリターナブル容器（繰り返し使用できる容器）の使用は、資源の節約や廃棄物の削減に有効な手段です。

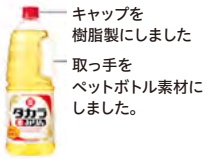
宝酒造はこの一升びんの使用量が国内トップクラスであり、上撰松竹梅1.8L、宝焼酎1.8L、タカラ本みりん1.8Lなどで使用されている一升びんを回収・洗瓶して再利用することで、環境負荷軽減を進めています。

LCA 原料調達 生産 物流 販売・消費
OUTPUT

リサイクル リサイクルしやすい容器包装の採用

宝酒造は、1998年にリサイクルの効率化のために策定された「指定ペットボトル自主設計ガイドライン」に酒類業界で初めて完全準拠したペットボトルを開発しました。また、お客様の分別作業が容易になるよう、1999年に本みりんや料理用清酒に「はずせるキャップ」を、2011年に松竹梅「天」にパウチパックを採用するなど、リサイクルの推進にも努めています。

●「指定ペットボトル自主設計ガイドライン」に完全準拠したペットボトル



●はずせるキャップ
キャップが簡単に外せるので、
リサイクルが可能になりました。

●パウチパックを採用した松竹梅「天」
キャップと本体がプラスチックなので
分別の必要がなく、丸めて簡単にリサイクルに
出すことができます。

リフューズ 焼酎のはかり売りの展開

「焼酎のはかり売り」は、新たな容器を使用せずに中身だけを販売するものです。

宝酒造は、専用タンクに詰めた焼酎を販売店に工場から直送します。お客様は家庭にあるペットボトルなどの空容器を販売店に持参し、販売店ではお客様が持参した空容器を洗浄します。お客様はその容器に必要な分だけ詰めて購入します。このように、伝統的な酒類の販売方法であるはかり売りを、現代風にアレンジしています。

2025年４月現在、85店舗で販売しており、お客様から「容器のごみが出ない」「欲しい量だけ購入できる」などの面からご好評をいただいています。

はかり売りの専用タンク

容器包装資材の循環

リサイクルパッケージ

トマーチン社では、特定の商品を除き、すべてリサイクル可能な容器包装を使用しています。また、フーデックス社でも再生プラスチックを使用した食品トレーを採用しています。

フーデックス社 再資源可能な食品トレー

森林認証紙、バイオマス原料の使用

宝グループでは、持続可能な社会の実現に向けて、資源の循環性に配慮すべく、“紙パック製品の森林認証紙使用率”や“紙、樹脂ラベルへのバイオマスインクの使用率”について、目標を策定した上で、積極的な導入を進めています。また、製品容器やラベルについて、バイオマス原料や再生可能な原料の採用を行っています。

森林認証紙使用

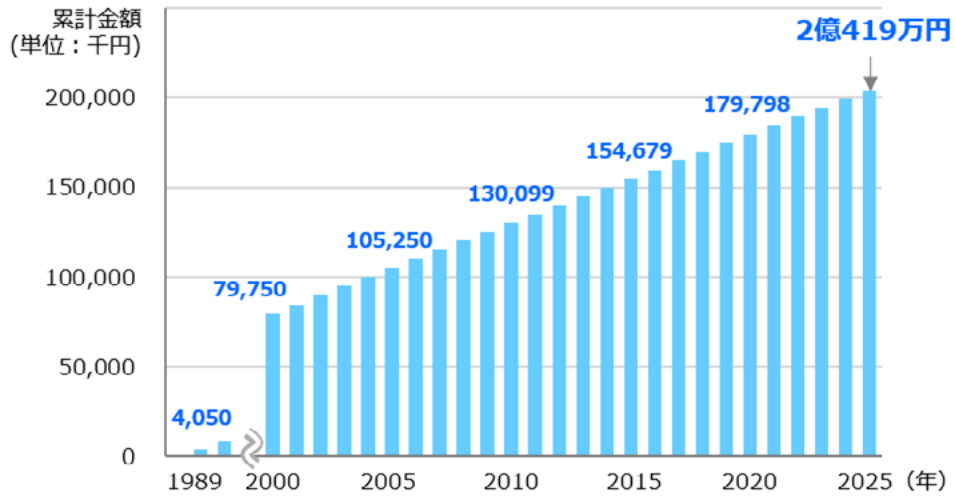
バイオマス原料使用

生物多様性の保全

タカラ・ハーモニストファンド

宝ホールディングスは、1985 年に公益信託「タカラ・ハーモニストファンド」を設立し、以来毎年、日本の森林・草原や水辺の自然環境を守る活動や、そこに生息する生物を保護するための研究などに対して助成を行っています。助成先の選考は自然科学分野の専門性の高い有識者により構成される運営委員会により行われ、助成金贈呈式も開催しています。今後も日本の自然環境を守り育てる活動や研究への助成を通じて、生物多様性および豊かな自然環境の保全を推進していきます。

タカラ・ハーモニストファンド助成実績



● 助成実績と助成先一例

40年間
のべ432件

北海道	2006 年	キウシト湿原の保全・再生事業
岩手県	1994 年	二戸市における名木・巨木調査に関する報告書
東京都	2011 年	小笠原の固有トンボ類再生、保全のための活動
茨城県	2003 年	田んぼの生き物保護活動と教育活動
石川県	1990 年	石川県の樹木分布の研究
大阪府	2012 年	タコの生態や歴史・人との関わりから大阪湾を知る
京都府	2011 年	鹿背山の里地里山を守り育てる活動
岡山県	1987 年	カブトガニの保護調査
徳島県	2000 年	吉野川河口干潟の保護活動
大分県	2004 年	ベッコウトンボの幼虫飼養・増殖の活動
沖縄県	2021 年	沖縄県における絶滅危惧種ジュゴンの生息確認

2025年度は、「東京都に生息するニホンカモシカの分布構造の決定機構」を行う髙田隼人さんのほか、全10団体・個人を助成。40年間の助成先はのべ432件、助成金累計金額は2億419万円となりました。

助成金贈呈式の様子

ニホンカモシカ

● 2025年度タカラ・ハーモニストファンド助成先一覧

	助成先・代表者名	地域	テーマ
活動の部	NPO 法人本州産クマゲラ研究会	秋田県 岩手県	絶滅に瀕する本州産クマゲラ個体群の生息・生態調査 および展覧会「クマゲラの世界展」開催
活動の部	渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会	栃木県	渡良瀬遊水地湿地再生みらいプロジェクト（どろんこ庭づくり）
活動の部	特定非営利活動法人 いしかわ生物多様性ネットワーク	石川県	能登半島における市民参加型の生物多様性モニタリング
活動の部	京都冠島調査研究会	京都府	国指定天然記念物オオミズナギドリ繁殖地冠島での調査研究者の 生活環境、情報発信並びに啓発活動の改善と向上
活動の部	屋久島町エコツーリズム推進協議会	鹿児島県	永田浜ラムサール条約登録20周年記念イベントの実施
研究の部	髙田　隼人	東京都	東京都に生息するニホンカモシカの分布構造の決定機構
研究の部	永野　真理子	京都府	プランクトンから探る水田ビオトープの生物多様性
研究の部	井田　秀行	長野県	ブナ林の断片化がブナの種子生産とその年次変動に及ぼす影響の解明
研究の部	きょうと生物多様性センター運営協議会	京都府	ミズスマシはなぜ、希少種となったのか？その要因と保全方法の検討
研究の部	夏川　遼生	新潟県	絶滅危惧種イヌワシの繁殖成功を促進する森林施業法の確立

環境教育

田んぼの学校

宝酒造では、2004年より、次世代を担う子どもたちに自然環境や生物多様性を守ることの大切さや、自然の恵みのありがたさを伝えることを目的として、環境教育プログラム・宝酒造「田んぼの学校」を開催しています。2025年も、小学生とそのご家族を対象に、京都府南丹市の田んぼで、春の田植えから秋の収穫までの稲作体験や、里山の自然観察の授業を年3回にわたって行っています。

田んぼの学校は全3回。お米ができるまでを体験します。

参加者は自分の手で苗を植え、草を取り、稲穂を刈り取って、お米ができるまでを体験するほか、田んぼ周辺の植物や昆虫などの生き物も観察します。

春 田植え編

田植え体験 苗を手に田植えスタート

自然観察 田んぼ近くの生きものを間近で観察

夏 草取り編

草取り体験 根が張った草を手で抜くのは一苦労

自然観察 自然観察講師と一緒に植物観察

秋 収穫編

稲刈り体験 収穫した稲は千歯扱きで脱穀

自然観察 水面に潜む昆虫をみんなで観察

環境教育

エコの学校

宝酒造「エコの学校」は、小学３～６年生とそのご家族を対象とした環境教育プログラムで、2012年から開催しています。これまで、京都市、神戸市、東京都江東区、名古屋市などの環境学習施設を中心に実施してきました。

2025年は、京都府京都市と滋賀県草津市で開催しました。

1時限目

１時限目は、映像を使った「ごみって何？」「家庭でごみを減らす方法」の授業です。
ガラスびんやPETボトルなどの3Rについて学びます。

2時限目

２時限目は、びんからできるガラスカレット（ガラス片）を使ったリサイクル体験です。
色とりどりのガラス片を並べて貼り付け、オリジナルのカレットアートを作ります。

プログラムを通じて

参加した方からは、「すてられたビンがきれいなアートになりビックリした。」「子どもも親もゴミのリサイクル、3Rについて詳細に知る事ができて勉強になった。」といった声が寄せられました。
宝酒造は、消費者や自治体と連携しながら廃棄物削減の課題に取り組みます。

● その他の環境社会活動

宝酒造

島原工場温水提供

2016年4月から、島原工場は地元貢献のため、島原市にアルコール蒸留後に発生した排温水を無償提供しています。島原温泉はもともと源泉の温度が低く、温度を上げるための燃料代等の維持管理費用が大きな負担となっていましたが、島原工場の排温水を利用したヒートポンプ方式の加温設備を導入することで、エネルギー消費量、CO_2排出量、エネルギーコストの大幅な削減につながりました。

ヒートポンプ

タカラバイオ

タカラバイオ出張授業

2018年より、文部科学省が学習指導要領で定めるカリキュラム「総合的な学習の時間」の一環として、滋賀県草津市の小学校で出前授業を開催しています。

また、毎年、大学などにおいて、当社の役員・社員が講師となり、遺伝子治療や再生医療などをテーマに、企業やビジネスの観点から、最近の動向と今後の展望などについての講演を行っています。

後日届いたお礼の手紙

宝ホールディングス

祇園祭後祭 ボランティア清掃

京都市に本社が位置する宝ホールディングスでは、社会貢献活動の一環として、ボランティアによる清掃活動を行っています。祇園祭後祭の期間中、開催エリアを中心に従業員が自主的に参加して取り組んでいます。

今後も、京都市の企業や団体と協力し、地域の環境整備を続けていきます。

祇園祭後祭 清掃活動への参加

タカラサプライコミュニケーションズ

友禅印刷

伝統的な友禅染の技法に学び、本来なら捨てられるはずのものを友禅印刷の手法でインキ化することで、廃棄物を印刷物にアップサイクルします。「友禅印刷」は、京都市が地域企業の優れた新商品の販路開拓を支援する「京都市ベンチャー購買新商品認定制度」に認定されました。(認定有効期間は令和6年3月30日～令和11年3月29日)

また当技術を用いて、松竹梅白壁蔵「然土」にはお米のもみ殻を使用したラベルを使用しています。インクの中にもみ殻が含まれているため独特の風合いのあるラベルになっています。

YU ZEN PRINT

松竹梅白壁蔵「然土」ラベル

タカラサプライコミュニケーションズ

京都ふぉんと

「京都ふぉんと」とは障がいをもつアーティストと福祉施設、タカラサプライコミュニケーションズ(TSC)が協働して、地域ならではのフォントやパターンを制作する京都発のサステナブルな共創アートプロジェクトです。TSCは、障がいをもつアーティストが描いたデザインを製品化し、さらにそれらを企業や自治体に提供して得た使用料の一部をアーティストに還元しています。この活動を通じて地域の活性化を推進するとともに、障がいをもつアーティストたちの社会参加を支援しています。

なお、このレポートにも「京都ふぉんと」のデザインを採用しています。

KYOTO FONT 京都ふぉんと

原画制作の様子

トマーチン社・タカラ物流システム

輸送工程での取り組み

トマーチン社では輸送および通勤において環境に配慮した車を使用しています。社用車のうち、60%以上が電気自動車またはハイブリッド車であり、敷地内には公共の電気自動車用急速充電器を設置しています。

タカラ物流システムでは、複数企業の荷物を同じトラックに積んで配送する共同配送を実施しています。これにより、配送の効率が向上するだけでなく、CO_2排出量の削減も期待できます。

トマーチン社　電気自動車充電スポット

3. 環境データ

●各種データ

環境マネジメント

●環境コンプライアンス

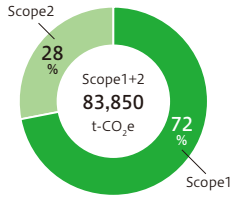
項目	対象範囲	単位	2024年度
環境法令違反による罰則	宝酒造	件	なし
環境法令違反による罰金	宝酒造	円	なし

気候変動

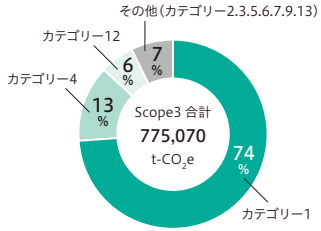
●GHG排出量（※Scope1で算出したGHG：CO_2、CH_4、N_2O、HFCs）

項目	対象範囲	単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
Scope1+Scope2	・宝ホールディングス ・宝酒造 ・宝酒造インターナショナルグループ（2022年度から追加）	t-CO_2e	102,866	101,431	92,175	84,540	83,850
内訳：Scope1			80,870	79,115	71,910	63,932	60,336
内訳：Scope2			21,996	22,316	20,265	20,609	23,514
Scope3 総計			—	—	—	794,129	775,070
カテゴリー1			—	—	—	587,638	572,109
カテゴリー2			—	—	—	16,156	20,368
カテゴリー3			—	—	—	18,205	17,898
カテゴリー4			—	—	—	102,602	99,287
カテゴリー5			—	—	—	3,390	3,627
カテゴリー6			—	—	—	260	263
カテゴリー7			—	—	—	669	678
カテゴリー8			—	—	—	算定対象外	算定対象外
カテゴリー9			—	—	—	11,058	10,513
カテゴリー10			—	—	—	算定対象外	算定対象外
カテゴリー11			—	—	—	算定対象外	算定対象外
カテゴリー12			—	—	—	49,057	45,901
カテゴリー13			—	—	—	5,094	4,426
カテゴリー14			—	—	—	算定対象外	算定対象外
カテゴリー15			—	—	—	算定対象外	算定対象外
Scope1+Scope2+Scope3			—	930,590	933,246	878,669	858,920

●2024年度
温室効果ガス（GHG）排出量実績



●2024年度
Scope3 カテゴリー別排出量



対象：宝ホールディングスおよび宝酒造、宝酒造インターナショナルグループの海外酒類事業

●生産工程におけるCO_2排出量

項目	対象範囲	単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
生産工程におけるCO_2排出量（生産拠点のみで算出）	宝酒造	1000t-CO_2	97.5	95.0	95.8	93.6	86.2	79.4	78.7
	宝酒造インターナショナル*		6.2	4.6	3.5	4.9	3.8	3.3	3.5
	タカラバイオ		13.2	10.9	12.8	14.3	15.7	14.2	14.2
	計		116.9	110.5	112.1	112.8	105.7	96.9	96.4

* 宝酒造インターナショナルグループの対象企業：Takara Sake USA Inc.、宝酒造食品有限公司、The Tomatin Distillery Co.Ltd

●物流工程におけるCO_2排出量

項目	対象範囲	単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
物流工程におけるCO_2排出量	宝酒造	t-CO_2	16,011	16,389	15,866	15,632	14,469	13,164	12,429

●生産拠点におけるエネルギー使用量

項目	対象範囲	単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
エネルギー使用量	宝酒造	TJ	1,562	1,555	1,501	1,467	1,400	1,363

※ 電力換算係数は国際エネルギー機関の 3.6MJ/kWh を使用

資源利用

● INPUT/OUTPUT

項目		対象範囲	単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
原材料使用量		宝酒造	千t	204	201	185	183	173	165
	原料	宝酒造	千t	182	184	169	168	158	151
	容器包装資材	宝酒造	千t	21	17	16	15	15	14
生産量		宝酒造	千kl	515	526	522	494	474	452

※ 省エネ法報告生産数量

廃棄物管理

●廃棄物排出

項目		対象範囲	単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
廃棄物		宝酒造	t	4,975	4,974	5,338	4,662	3,973	3,518
	再資源化量	宝酒造	t	4,859	4,886	5,287	4,616	3,873	3,423
	最終処分量	宝酒造	t	116	88	51	46	100	95
有害廃棄物		宝酒造	t	2	0.2	2.4	5.1	2.1	10.8

※ 有害廃棄物（廃油・廃酸・廃アルカリ・PCB）

●大気排出

項目	対象範囲	単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
NOx	宝酒造	t-NOx	104	100	94	80	30	137
SOx	宝酒造	t-SOx	118	96	97	90	88	86
VOC	宝酒造	kg	0	0	0	0	0	0

水セキュリティ

●適正な水使用

項目		対象範囲	単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
水資源投入量		宝酒造	千m^3	5,903	5,810	5,606	5,626	5,050	4,756
	上水	宝酒造	千m^3	275	251	219	206	240	205
	工業用水	宝酒造	千m^3	1,048	1,081	1,089	1,129	1,117	1,051
	地下水	宝酒造	千m^3	4,580	4,478	4,298	4,291	3,694	3,499
排水量		宝酒造	千m^3	5,098	4,927	5,147	5,565	4,505	4,326
	下水道	宝酒造	千m^3	914	853	883	824	714	729
	河川	宝酒造	千m^3	2,963	2,769	2,866	3,462	2,536	2,506
	港湾	宝酒造	千m^3	1,221	1,305	1,398	1,279	1,256	1,090
排水水質	COD	宝酒造	t-COD	64	56	43	45	20	52
	窒素	宝酒造	t-N	8	9	12	12	4	5
	リン	宝酒造	t-P	3	2	3	3	1	1
生産工程での用水使用量		宝酒造、Takara Sake USA Inc. 宝酒造食品有限公司、The Tomatin Distillery Co.Ltd.、タカラバイオ、宝生物工程（大連）有限公司、DSS Takara Bio Pvt. Ltd.、Takara Bio USA,Inc. ※2019年2月まで瑞穂農林、きのこセンター金武含む	千m^3	7,295	6,822	6,465	6,484	6,134	5,398

※ 法令による測定義務5工場が対象

生物多様性

●生態系・生物多様性の保全（1985 ～ 2025 年現在）

項目	対象範囲	単位	累計
生態系や生物多様性を守る活動や研究への助成件数	宝ホールディングス	件	432
助成金額	宝ホールディングス	万円	20,419

ESGインデックスへの組入状況

宝ホールディングスは、GPIF（年金積立金管理運用独立行政法人）に採用されているESG指数をはじめ、主要なESG指数の構成銘柄となっています。

※2025年7月時点

FTSE4Good
FTSE4Good Index Series

FTSE Blossom Japan Index
FTSE Blossom Japan Index

2025 CONSTITUENT MSCI日本株 ESGセレクト・リーダーズ指数

※ The inclusion of [Takara holdings inc.] in any MSCI index, and the use of MSCI logos, trademarks, service marks or index names herein, do not constitute a sponsorship, endorsement or promotion of [Takara holdings inc.] by MSCI or any of its affiliates. the MSCI indexes are the exclusive property of MSCI. MSCI and the msci index names and logos are trademarks or service marks of MSCI or its affiliates.

MSCI日本株ESGセレクト・リーダーズ指数

S&P/JPX カーボン エフィシェント 指数

S&P/JPX カーボン・エフィシェント指数

●TCFDフレームワークに基づく開示

TASK FORCE ON CLIMATE-RELATED FINANCIAL DISCLOSURES

宝グループは、地球環境の保全と事業活動の調和を経営の重要課題のひとつと位置づけ、積極的に取り組みを進めています。当社グループでは、気候変動が事業の持続性に影響を与える重要な問題であると認識し、気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）の提言に賛同するとともに、TCFDフレームワークに沿って気候変動に関するリスクと機会の評価と対応を進め、関連する情報の開示を行いステークホルダーの皆様と対話を続けていきます。

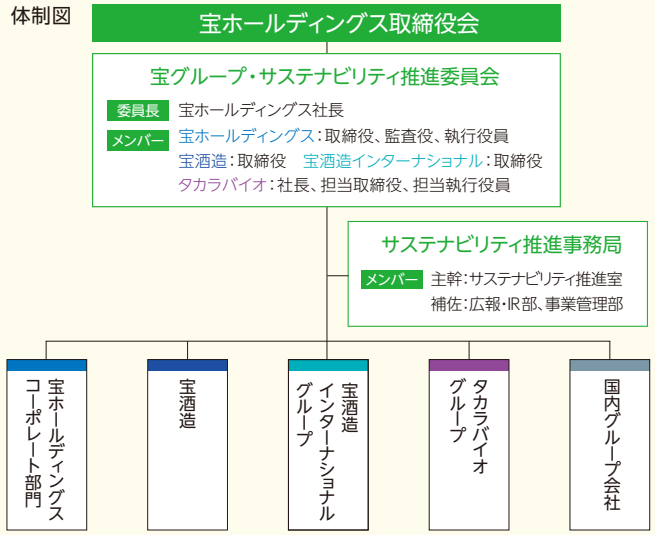
また、TCFD 提言へ賛同する企業や金融機関等が一体となって取組を推進し、企業の効果的な情報開示や、金融機関等の適切な投資判断に繋げるための取組について議論する場である、TCFDコンソーシアムにも加盟しています。

ガバナンス

宝グループでは、取締役会の監督のもと、宝ホールディングス代表取締役社長を委員長とした「宝グループ・サステナビリティ推進委員会」を設置し、気候変動が事業に与えるリスク・機会の評価や戦略の策定、目標などについて審議を進めています。また、宝グループ・サステナビリティ推進委員会の下部組織として気候変動問題に対応する「サステナビリティ推進事務局」を設置しています。サステナビリティ推進事務局は、宝グループ・サステナビリティ推進委員会の決定に基づいて、グループ各社の具体的活動の設定、実行を推進します。

これらの気候変動問題を含むサステナビリティの取り組みは、宝グループ・サステナビリティ推進委員会が取締役会に報告します。

体制図



リスク管理

宝グループでは、宝酒造株式会社、宝酒造インターナショナル株式会社（海外酒類事業、海外日本食材卸事業）を対象に、リスクと機会を特定しました。特定のプロセスとしては、移行リスクや物理的リスクについて、専門家の意見や公表されているレポートなどを参考に、想定されるリスク・機会を抽出し、影響を受ける可能性や大きさを考慮し、短期・中期・長期の時間軸で影響が大きいと想定されるリスク・機会を選定しました。特定されたリスク・機会の内容とその対応策は、宝グループ・サステナビリティ推進委員会が取締役会へ報告します。

戦略・シナリオ分析

宝グループでは、2021年度の宝酒造株式会社、2022年度の宝酒造インターナショナル株式会社海外酒類事業に加え、2023年度は宝酒造インターナショナル株式会社海外日本食材卸事業を対象に広げ、気候変動リスク・機会による事業への影響の把握、対応策の検討のためのシナリオ分析を実施しました。

なお、この分析にあたり、物理的リスクではIPCC（気候変動に関する政府間パネル）のAR5によるRCP2.6（2℃未満シナリオ）およびRCP8.5（4℃シナリオ）、移行リスクではIEA（国際エネルギー機関）のWEOによるAPSシナリオ（2℃未満シナリオ）、SDSシナリオ（2℃未満シナリオ）、NZE2050シナリオ（1.5℃シナリオ）を参照し、気候変動による影響を分析・検討しました。

移行リスク
気温上昇が2℃未満に抑えられ、カーボンニュートラル達成に向け厳しい環境規制が導入される中で、炭素税の導入による、製造コストや運営コスト、保管コスト、容器・包装材価格の増加により事業が影響を受けます。

物理的リスク
気温上昇が4℃程度となり、海面上昇による高潮や洪水の被害は操業に大きな影響を与えます。さらに、気温上昇により、原材料である農作物の収量が大きな影響を受けることがわかりました。

機会
省エネ設備の導入等省エネ推進によって操業コストが低減することや、エシカル消費需要やエコ商品需要の高まりは、当社にとって機会になると考えています。

今後は、継続的にリスク・機会の見直しや対策の具体化を進め、中長期の経営戦略に反映させることで戦略のレジリエンス向上に努めます。

対象企業：宝酒造株式会社、宝酒造インターナショナル株式会社〈海外酒類事業（Takara Sake USA Inc.、宝酒造食品有限公司、The Tomatin Distillery Co. Ltd）　海外日本食材卸事業（Mutual Trading Co., Inc. 、Tazaki Foods Limited、FOODEX S.A.S.、Cominport Distribución S.L.、Nippon Food Supplies Company Pty Ltd）〉

※タカラバイオ株式会社のTCFDフレームワークに基づく開示はタカラバイオウェブサイトをご覧ください。

国内事業・海外酒類事業における気候変動による事業リスクと機会

	リスク 内容	時間軸※1	影響度※2		対 策
移行リスク	炭素税導入による製造コストの増加	中期	1.5℃シナリオ 中	2.0℃シナリオ 中	・CO_2排出量削減の取り組み推進、再エネ比率の拡大 ・モーダルシフトの推進(日本国内が対象) ・再生可能エネルギー利用の推進(太陽光パネル設置等) ・社用車のEV化
	容器・包装材コストの増加	中期	中	中	・リサイクル容器や低炭素の代替容器への切り替え ・紙や段ボールの認証取得(FSC、PEFC等) ・軟包材・印刷へのバイオマス原料使用 ・包装材軽量化(壜缶の軽量化・ラベルシール廃止)
物理的リスク	河川氾濫(水害)	長期	4.0℃シナリオ 大		・日本国内の生産拠点の分散化 ・大規模浸水が想定される拠点の重点調査・対策検討 ・BCPの検討・策定
	沿岸氾濫(水害)	長期			
	農作物収穫への影響(詳細は下記を参照)				(詳細は下記を参照)

※1 中期 2030年頃まで 長期 2050年頃まで
※2 財務指標に与える影響度 大 5%以上 中 1~5% 小 1%未満
移行リスクは連結営業利益、物理的リスクは連結売上高、連結有形固定資産、連結棚卸資産への影響

	機会 内容	対 策
機会	省エネ設備への入替によるコストへの影響	・低炭素型設備の導入(ボイラーを重油から天然ガスへ転換) ・Tomatinにおけるバイオマスボイラーの活用
	省エネ推進によるコスト削減への影響	・操業コストの低減に繋がる省エネ設備の導入促進 ・排熱の再利用促進の検討(ヒートポンプの活用等)
	エコ商品需要(エシカル消費需要)の増加	・エシカル消費に対応した商品開発(寶CRAFT、松竹梅「然土」、等) ・環境配慮型商品や認証商品への取り組み

農作物収穫への影響

宝酒造株式会社、宝酒造インターナショナル株式会社海外酒類事業を対象に広げて、原材料使用で高ウエイトを占める4品目について気温上昇による収量への影響を分析しました。

産業革命以前からの世界平均の気温上昇量(℃)と影響変化

品目	主要原産国	2.0℃	4.0℃	対策
サトウキビ(収量)	ブラジル	＋	＋＋	・生産者との協業による安定調達の継続 ・調達リスクを低減するためのサプライヤーの調査・分散化 ・気候変動に対応した原材料の調査・検討
トウモロコシ(収量)	米国	－－	－－	
水稲(収量)	日本	－	－－	
水稲(収量)	中国	＋	＋	
水稲(収量)	米国	＋	＋	
大麦(収量)	英国	＋＋	—	

【影響変化】－／＋
30%以上 －－／＋＋
15%以上30%未満 －－／＋
15%未満 －／＋
変化なし －
データなし —

海外日本食材卸事業における気候変動による事業リスクと機会

	リスク 内容	時間軸※1	影響度※2		対策
移行リスク	炭素税導入による商品調達コストの増加	中期	1.5℃シナリオ 小	2.0℃シナリオ 小	・炭素税等カーボンプライシングの動向把握 ・持続可能な容器・包装材を扱った商品の調査・切替
	炭素税導入による配送・保管コストの増加	中期	小	小	・EV車、EVトラックの導入 ・各国の再生可能電力動向の把握 ・再生可能エネルギー利用の推進(太陽光パネル設置等) ・省エネ施策の検討・推進(照明のLED化、照明の自動センサー化、空調のヒートポンプ活用等)
	電力価格の上昇による保管コストの増加	中期	—	小	
	原材料の収穫減少による調達価格の上昇	中期	中(定性評価)		・代替調達先の検討・選定 ・代替商品の調査・調達
物理的リスク	河川氾濫(水害)	長期	4.0℃シナリオ 小		・BCPの検討・策定(拠点設備の対策、在庫対応、物流ルート対応、供給先への納品量対応、訓練の実施等) ・水害リスクを考慮した立地検討や施設床高の確保
	沿岸氾濫(水害)	長期			

※1 中期 2030年頃まで 長期 2050年頃まで
※2 財務指標に与える影響度 大 5%以上 中 中 1~5% 小 1%未満 移行リスクは連結営業利益、物理的リスクは連結売上高、連結有形固定資産、連結棚卸資産への影響 — シナリオデータなし

	機会 内容	対策
機会	環境配慮型製品・パッケージへの切り替えによる取引増加	・環境配慮型製品・パッケージの選定と品揃え ・調達に向けたサプライヤーとの協力関係の構築
	エシカル消費の需要増加	・牛肉の代替品として気温上昇抑制に繋がる、植物ベースの「ヴィーガン商材」等の品揃え強化 ・商品特徴や認証取得に関する顧客への情報提供

指標と目標

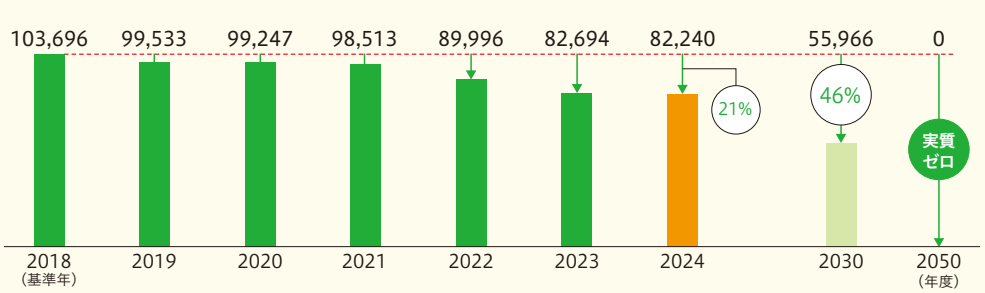
宝グループは、「宝グループ・サステナビリティ・ビジョン」においてCO₂排出量の削減目標を設定しており、宝酒造株式会社、宝酒造インターナショナルグループにおいては生産拠点におけるScope1、Scope2の合計CO₂排出量の目標を設定しています。

■ 目標と2024年度の進捗状況

範囲	指標・目標	2024年度実績
宝酒造 ＋宝酒造インターナショナルグループ	【2030年度】生産拠点におけるCO₂排出量を46%削減（2018年度比）	2018年度比:21%削減 CO₂排出量:82,240（t-CO₂）
宝酒造（物流部門）	【2030年度】輸送におけるCO₂排出原単位（出荷数量当たりのCO₂排出量）を10%削減（2018年度比）	2018年度比:16%削減
タカラバイオグループ	【2025年度】CO₂排出原単位（売上高当たりのCO₂排出量）を50%削減（2018年度比）	2018年度比:14%削減
グループ全体	【2050年度】CO₂排出量実質ゼロ	—

■ 宝酒造、宝酒造インターナショナルグループのScope１、Scope２の合計CO₂排出量

※宝酒造、宝酒造インターナショナルグループの生産拠点



■ 宝ホールディングス株式会社・宝酒造株式会社のGHG（温室効果ガス）排出量（2024年度）

宝ホールディングス株式会社・宝酒造株式会社ではScope1、Scope2、Scope3のGHG（温室効果ガス）排出量の算定を行っております。今後グループでの把握を進めていきます。

単位：t-CO₂e

		2023年度	2024年度
Scope1+Scope2	マーケット基準	84,540	83,850
	Scope1	63,932	60,336
	Scope2　マーケット基準	20,609	23,514

カテゴリー			2023年度	2024年度	算定方法
Scope3			794,129	775,070	
上流	カテゴリー1	購入した製品・サービス	587,638	572,109	調達した原材料・容器包材を対象に算出
	カテゴリー2	資本財	16,156	20,368	購入した設備・機器を対象に算出
	カテゴリー3	Scope1,2に含まれない燃料およびエネルギー活動	18,205	17,898	燃料・電力の使用量を元に算出
	カテゴリー4	輸送、配送（上流）	102,602	99,287	調達した原材料・容器包材の物流を対象に算出
	カテゴリー5	事業から出る廃棄物	3,390	3,627	廃棄物の重量や処理費用を対象に算出
	カテゴリー6	出張	260	263	従業員の出張を対象に算出
	カテゴリー7	雇用者の通勤	669	678	従業員の通勤を対象に算出
	カテゴリー8	リース資産（上流）	—	—	算定対象外
下流	カテゴリー9	輸送、配送（下流）	11,058	10,513	出荷物流を対象に算出
	カテゴリー10	販売した製品の加工	—	—	算定対象外
	カテゴリー11	販売した製品の使用	—	—	算定対象外
	カテゴリー12	販売した製品の廃棄	49,057	45,901	販売商品の廃棄物を対象に算出
	カテゴリー13	リース資産（下流）	5,094	4,426	外部への賃貸機器を対象に算出
	カテゴリー14	フランチャイズ	—	—	算定対象外
	カテゴリー15	投資	—	—	算定対象外
Scope1+Scope2+Scope3			878,669	858,920	

Scope1：事業者自らによる温室効果ガスの直接排出（燃料の燃焼、工業プロセス）
Scope2：他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出
Scope3：Scope1、Scope2以外の間接排出（事業者の活動に関連する他社の排出）
※宝酒造インターナショナル株式会社海外酒類事業の対象企業：Takara Sake USA Inc.、宝酒造食品有限公司、The Tomatin Distillery Co.Ltd
※GHG排出実績は第三者検証等により変更の可能性があります

4. 宝の環境社会活動のあゆみ

1925
1925（大正14年） 寶酒造株式会社創立

1980
1979（昭和54年） 「カムバック・サーモン・キャンペーン」開始

1984（昭和59年） 「はたちまでストップ」企業広告を実施
1985（昭和60年） 公益信託タカラ・ハーモニストファンドを設立
1985（昭和60年） 「Say No」キャンペーン実施

1990
1985（昭和60年） 適正飲酒啓発パンフレット「Say No読本」を発行
1989（平成元年） スポーツドリンク「PADI」に、日本で初めてステイオンタブ（SOT）を採用

1991（平成3年） 第1回「タカラ クリーンcan ウォーキング」を開催
1994（平成6年） 北海道で宝焼酎「純」、「純」レジェンドのリターナブルボトル化開始
1994（平成6年） 四万十川の清流を守ろうキャンペーン開始
1995（平成7年） 阪神・淡路大震災で支援ボランティアスタッフを派遣
1995（平成7年） 未成年者飲酒、飲酒運転の注意表示を開始
1995（平成7年） 商品に点字で「おさけ」表示を開始
1998（平成10年） 焼酎のはかり売り開始

2000
1998（平成10年） 環境報告書「緑字決算報告書」初刊発行

1999（平成11年） タカラ本みりん「醇良」にはずせるキャップを採用
2000（平成12年） 地球環境大賞「地球環境会議が選ぶ優秀企業賞」受賞
2002（平成14年） ベロタクシーへの協賛開始
2004（平成16年） 環境教育教材「リサイクルロード」発刊
2004（平成16年） 宝酒造「田んぼの学校」開始

2004（平成16年） 妊産婦飲酒の注意表示実施
2005（平成17年） CSR報告書「緑字企業報告書」初刊発行
2006（平成18年） お客様相談室のウェブサイト開設
2008（平成20年） 「宝酒造杯囲碁クラス別チャンピオン戦」開催
2009（平成21年） 「お酒おつきあい読本」発行

2010
2011（平成23年） 東日本大震災で被災地給水を支援
2011（平成23年） 松竹梅「天」にパウチパックを採用
2011（平成23年） 宝酒造「田んぼの学校」が「企業フィランソロピー大賞特別賞」を受賞
2012（平成24年） 宝酒造「エコの学校」開始
2014（平成26年） 宝酒造「田んぼの学校」が「青少年の体験活動推進企業表彰」で「審査委員会特別賞」を受賞
2014（平成26年） 「リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰」で最高賞「内閣総理大臣賞」を受賞
2017（平成29年） 松竹梅「天」エコパウチが「容器包装簡素化大賞2017」の特別賞を受賞

2018（平成30年） 「エコマークアワード2018」で宝酒造が「最優秀賞」を受賞
2019（令和元年） 森林認証紙の採用（PEFC認証等）

2020
2020（令和2年） 宝グループ・サステナビリティ・ポリシー公表
2021（令和3年） 宝グループ・サステナビリティ・ビジョン策定
2023（令和5年） 宝ホールディングス歴史記念館 CO_2フリーエネルギー化
2023（令和5年） 宝ホールディングスと宝酒造のScope3算定開示
2024（令和6年） 寶CRAFT京檸檬が「第7回エコプロアワード」の「財務大臣賞」を受賞